

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																					
読売理工医療福祉専門学校		昭和51年6月1日	水落清治	〒112-0002 東京都文京区小石川 1-1-1 (電話) 03-3686-0411																					
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																					
学校法人読売理工学院		昭和45年1月31日	松井 敏宏	〒112-0002 東京都文京区小石川 1-1-1 (電話) 03-3686-0411																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																				
工業	工業専門課程	放送映像学科		平成22年文部科学省 告示第31号																					
学科の目的	実習を多く取り入れる授業を編成し、実際に働く現場で通用する知識や技術を習得することにより、テレビ番組制作等の現場において即戦力となる人材を育成することを目的としている。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
2年	昼間	1700単位時間	782時間	306時間	1224時間	0時間	0時間																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
160人		132人	0人	6人	18人	24人																			
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、出席、演習、課題等の総合評価																				
長期休み	■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■学年末: 3月21日～3月31日			卒業・進級条件	進級: 必修科目を含む修得単位数が 38単位以上 卒業: 必修科目を含む修得単位数が 69単位以上																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による個別面談を全員に実施。その他は随時対応。			課外活動	■課外活動の種類 ・スタジオや機材展示会の見学 ・コンテスト等の応募作品の制作 ■サークル活動: 有																				
就職等の状況	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) テレビ放送業界を中心に、業界の関連企業への就職 株式会社日放、株式会社イカロス、株式会社共同エディット、株式会社泉放送制作他			主な学修成果 (資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>映像音響処理技術者</td> <td>③</td> <td>65人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	映像音響処理技術者	③	65人	25人													※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																						
映像音響処理技術者	③	65人	25人																						
	■卒業生数 69 人 ■就職希望者数 64 人 ■就職者数 58 人 ■就職率 91 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 84.05797101 %				■自由記述欄																				
	■その他 ・進学者 0人 ・帰国(留学生) 0人 ・その他 5人																								
	(令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																								
中途退学の現状	■中途退学者 8 名 令和3年4月1日時点において、在学者128名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者119名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、健康上の理由、経済的問題、学校生活への不適合等 ■中退防止・中退者支援のための取組 個別面談・保護者との連絡、特別補講等を基本的な対応とし、健康上の理由や学校生活への不適合等の踏み込んだ課題には、医療機関の紹介、保護者面談やスクールカウンセラーの紹介等に対応している。案件によっては、教育指導方法や適切な対応を行うため、教員が事前にスクールカウンセラーと面会し、指導に関して助言等を受けている。経済的な問題に関しては奨学金等活用や授業料の延納分納対応をしている			■中退率 6 %																					

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>①学費支援制度(新入生対象) 経済的な事情で進学を諦めなければならない状況にある、勉学意欲があり本校への入学を強く希望している方で、世帯年収の目安が500万円以下の方を対象に選考し入学時納付金の一部を免除する制度。</p> <p>②小林與三次記念育英奨学金制度 経済的な事情で修学を諦めなければならない状況にある、勉学意欲があり学業の優秀な本校の在校生を対象とした奨学金制度</p> <p>③留学生対象推薦入学学費減免制度 私費留学生在が出願時に日本語学校の推薦を受けている場合に入学時納付金の一部を減免する制度</p> <p>④留学生特別奨学金制度 出席状況が優良な私費留学生に対して奨学金を支給する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>http://www.yomiuririkou.ac.jp/course/tv/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携し、最新の技術を教育に取り入れる事と、読売グループの一員として、番組制作会社との間で就業体験を中心とするインターンシップを行い、卒業後、放送業界で就業できる教育を行うことを基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長の下に教育課程編成委員会を置き、校長を委員長として業界団体や有識者、企業関係者の外部委員と当該学科の学科長ならびに事務局長を委員として選出し、年に2回以上開催し、学科の教科構成や実習・演習の内容はもちろん教員研修等について、外部委員の意見をもとに当該学科の実践的な職業教育の実施に向け、必要なカリキュラムの改善案を教務で検討し校長に報告、カリキュラムに反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
毛塚 善文	日本映画テレビ技術者協会 常任理事・事務局長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	①
羽場 宏祐	株式会社インターナショナルクリエイティブ 最高顧問	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	③
水落 清治	読売理工医療福祉専門学校 校長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	
高橋 栄樹	読売理工医療福祉専門学校 放送映像学科 学科長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、11月)毎年7月頃に前年度の検証を行い、11月頃に次年度の方針を決定していく方針で、年2回開催する。

【開催日時(実績)】

令和3年度第2回 令和3年11月24日(火) 16:00～17:00

令和4年度第1回 令和4年 7月20日(水) 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

就職状況は、例年に比べて芳しくない状況で、学生の不安への対応や内定までの指導が難しい状況である。委員からの意見として、基幹となる放送局の活気がなくなって、局舎に行ってみると以前のような明るさが無く、どことなく低調である。コロナによる各種制限やインターネット番組への制作費シフトなどの影響で番組制作に関係する技術会社は苦戦を強いられている。また採用見送りの原因の一つに今期採用した人員教育がコロナ対応で満足に実施できておらず、現場での戦力になっていない為、次期採用にまで考えが及んでいない背景が考えられるなどの意見から現状の把握が出来た。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

160人

業等の人材ニーズを活かしつつ、放送業界の現場で必要となる実践的かつ専門的な能力を育成するため、実習・演習等の授業において、企業等との組織的な連携を通じ、最新の技術動向が反映された技術・技能を教育する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

最も実践的な実習・演習等の場として、企業等との間でインターンシップ制度を設けている。これは、就業体験を中心とする企業研修制度であり、履修単位として認定している。

連携企業と専任教員が連携し課題・進行・指導方法などカリキュラムやシラバスの作成し、連携企業からの教員が実務に近い授業進行と指導ならびに評価を行うこと実践的な知識が身付くと共に学修成果達成度の向上に期待できるとともに、連携授業を通して企業から指摘された点の改善を図っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
スタジオ実習Ⅰ	放送業界で仕事をする上での心構え、発想の転換・感性を磨くために、スタジオでの番組作りを通じて、カメラや照明などのスタジオ技術の関わり的重要性を理解する。	株式会社日テレ・テクニカル・リソーシズ
音声実習	テレビ番組における音声の収録方法について、基本的な機器操作や技術を修得させる。担当教員の経験から各種番組のノウハウを分かり易く説明し、全員が音声を担当しても困らない程度の技術と知識を持った人材を育てる。	株式会社A&N PRO
ノンリニア編集	映像編集の実技を通して基礎の編集技術を身につけ、映像への興味と感性を養う。また、テレビ業界の現役編集者の実技指導によって、より実践的な技術と知識を学ぶとともに、編集の楽しさとやりがいを知り、専門職への興味を持たせる。	日本TV映像株式会社
スタジオ実習Ⅱ	スタジオでの番組制作について実践を通して学ぶ。様々なジャンルの番組を制作していく中で、番組制作のノウハウを学び、応用力を付ける。対談番組ではサイズやカットインの基礎、バラエティーではアドリブ性やハプニングに対する対応、音楽番組では照明・音のチームワークやバランス・サイズ等の構図、料理番組では演出による被写体の見え方等。	株式会社ファーストショット
テレビ音声	テレビ音声の役割を理解させ他の部署との協調性を常に保つよう指導して1年間で音声の基礎と機器の操作方法を習得させる。	株式会社A&N PRO

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員として所属学科の実践的な職業教育を行うために必要な実務、学術的知識、教育方法について絶えず新しい情報に触れ教員自らが自己研鑽に務めることが重要である。教員の能力向上を適切に評価し企業へ出向く研修や教育指導の改善や企業を招き行う研修会などについて計画的に実施するため、本校では、読売理工学院管理運営規則第12条で定めた、教職員研究助成規定で「学院に勤務する教職員(専任、特別契約教員)で本学院教育の向上に資する学問・技術の研究又は教育行政上の研究を行おうとする者に対して助成を行うこと」。教員研修規定で「担当学科分野における実務に関する知識、技術、技能をはじめとし、授業や学生指導など教育全般にわたる能力向上を図るため、組織的に位置づけられた研修機会を確保し、計画的に受講すること」と定め、これら規定により年度計画に合わせ予算に計上し校長指示により研修が実施される。学科長又は教員自らが自己研鑽を目的に研修・研究の実施を希望する場合も同様に校長が判断をする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

・メディア4媒体とインターネット 広告収入の推移とコンテンツの多様化におけるTV業界についての研修

日時: 令和4年3月24日

場所: 読売理工医療福祉専門学校 301教室

主催: 株式会社インターナショナルクリエイティブ

内容: メディア4媒体とインターネット 広告収入の推移とコンテンツの多様化におけるTV業界の動向

参加者: 5名

・スタジオ運用技術の研修

日時: 令和4年7月6日、7月13日

場所: 日本テレビ放送網 生田スタジオ

主催: 読売理工医療福祉専門学校

内容: スタジオ運用技術について

参加予定: 3名

② 指導力の修得・向上のための研修等

・臨床心理士による学生カウンセリングに関する研修

日時: 令和4年2月18日(金)

場所: 読売理工医療福祉専門学校 305・306教室

主催: 読売理工医療福祉専門学校

内容: 困った人への対応と題した、学生への対応についての研修

参加者: 6名

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

日程: 令和4年11月中旬 予定
最新放送機器に関する研修
場所: 幕張メッセ 国際放送機器展
主催: 一般社団法人電子情報技術産業協会
内容: 最新技術の展示説明を通して最新機材の情報収集
参加予定: 6名

その他計画中的研修等
映画テレビ技術者協会の実施するセミナーへの参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

新型コロナウイルス感染症の感染予防のため実施に関してはオンラインその他の活用を予定、日時場所に関しては未定

日 時: 令和4年1月下旬
タイトル: 指導技術・専門教育におけるICTの活用に関する研修
場 所: 読売理工医療福祉専門学校 402教室
研修内容: 遠隔授業の導入事例
教科との関連: 分野全般での指導方法に活用役立てる

日 時: 令和4年2月中旬
タイトル: 臨床心理士による学生カウンセリングに関する研修
場 所: 読売理工医療福祉専門学校 402教室
研修内容: 精神・発達障害の理解と接し方
教科との関連: 分野全般での指導方法に活用

- ・インストラクションスキルの向上について研修
- ・東京都専修学校各種学校協会等加盟団体等の実施する研修会への参加

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、放送映像学科の関連業界、卒業生、保護者など学校と密接に係る者の理解促進と継続した連携協力体制の確保により、学校運営・教育内容の改善を図るため「学校関係者評価委員会」を設置し、当委員会の意見を学校運営等の改善に活用するとともに結果を公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念、目的、育成人材像、特色
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、意思決定機能
(3) 教育活動	教育目標、教育課程、成績評価基準、資格取得の指導体制、授業評価
(4) 学修成果	就職率、資格取得、退学率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職指導、学生相談、健康管理、課外授業、保護者との連携
(6) 教育環境	施設・設備の整備、インターンシップ、海外研修、防災体制
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10) 社会貢献・地域貢献	教育資源・施設の活用、学生ボランティア活動、公開講座・教育訓練の実施
(11) 国際交流	海外研修、留学生の受入れ・在籍管理・就職指導

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会の意見をもとに、目標とすべきテーマを掲げ、校長や各学科で目標に向けて取り組み、達成状況に対する意見を委員会でいただき、改善すべきところを改善している。例えば新型コロナウイルス感染症対策をについてや、除籍退者を減らすことなど目標としている。他に卒業生との連絡状況や、地域住民と学校行事との連携強化など、今後の課題も見えてきている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
渡部 俊一	読売理工専校友会 会長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	卒業生委員
本田 章良	臨床工学科在学生 保護者	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
杉田 明治	文京区礪川地区町会連合会 会長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	地域委員
羽場 宏祐	(株)インターナショナルクリエイティブ 最高顧問	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	企業委員
鹿毛 信一	河端建設(株) 工事部部长	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	企業委員
小嶋 守	小嶋電工株式会社 専務取締役	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	企業委員
伊藤 大輔	医療法人社団 愛友会 伊奈病院 医療技術 部 臨床工学科 係長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	企業委員
大庭 尚子	港区東部在宅医療相談窓口	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	企業委員
中村 孝之	公益財団法人 日本建築衛生管理教育セン ター 業務部教務課 技術主幹	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	企業委員
水落 清治	読売理工医療福祉専門学校 校長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	学校委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表時期 9月上旬 1月下旬

<http://www.yomiuririkou.ac.jp/about/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本校の全般について理解を深めるとともに、連携および協力の推進に資するため、本校の基本的情報を含めた必要な情報を分かり易い形で、ホームページを通じて恒常的に提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の育成人材像、特色、沿革
(2) 各学科等の教育	定員、入学者数、在籍者数、教育課程、進級、卒業要件、目標資格
(3) 教職員	教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援、インターンシップ
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学生相談室、留学生相談室
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金制度
(8) 学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	海外研修派遣制度
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.yomiuririkou.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程放送映像学科) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		社会人基礎力講座	社会人として必要な基礎的な力を理解し、「挨拶をする」「積極的に自分の考えを発言する」など、チームで働く力や向上心を伸ばし、就職に対する意識を高めます。また、就職や将来の夢を実現するために、自己理解を深めた上での書類の書き方、面接での基本姿勢など、実戦形式も取り入れた授業を行う。	1後	34	2	○			○			○	
2	○		特別講義	各分野で活躍されている現場の方を講師として招き、今現在の仕事の様子や今後の動向などを交えて講義する。	1後	34	2	○			○			○	○
3	○		マルチメディア工学概論	動画圧縮などの基礎知識、実習でも用いる撮影機器の記録メディアの種類や仕組みについて必要な知識を理解する。	1通	68	4	○			○		○		
4	○		基礎演習	パソコンのや実習で使用する機材の基本的な使い方を学び、また、より自然でより効果的なコミュニケーションスキルの向上をはかる為に、「自己演出力」の修得を目指すと共に、1年次にクラスでの活動や就職指導、機器の説明などを行う。	1前	34	2		○		○		○		
5		○	一般教養講座 I・II	基礎学力の向上と就職試験対策を目的として、数学と国語の復習を行う。数学は式の計算、展開・因数分解、平方根、方程式、関数、相似、図形の面積・体積など。国語は漢字の読み・書き、類義語・対義語、熟語、同訓異字・同音異義語、新聞読解など。	1通	68	4	○			○		○		
6		○	海外研修	姉妹提携校であるオーストラリアのクイーンズランド州政府が運営するゴールドコースト技術教育専門学校で英語を学び、ホームステイ等、異文化での様々な体験を通して、広い視野と国際感覚を身に付ける事を目的とした海外研修を実施している。オーストラリアの歴史や文化に触れる海外研修をしている。	1後	34	1		○			○		○	
7		○	日本語講座	留学生を対象にした講座で、これから受ける専門教育の授業内容を理解するために必要となる日本語の基礎知識を学ぶ。内容は、文法・文字・語彙・文章理解・作文など。また、日本語能力に個人差があるので、各人の能力に合わせて日本語能力検定の受験指導なども行う。	1通	68	4	○			○			○	
8		○	社会人教養講座 I	社会人として第一歩を踏み出す学生の皆さんに役立つように、働くことの意味、社会の仕組み、そして今の日本が抱える諸課題について、分かりやすく解説します。	1前	34	2	○			○			○	

9			○	社会人教養講座Ⅱ	社会人教養講座Ⅰの内容をより深め、皆さんが学んだ専門知識や技術を存分に活用し、有意義な社会生活を送って行くために必要なノウハウを、アドバイスしていきます。	1後	34	2	○			○			○	
10	○			スタジオ実習Ⅰ	①照明効果を理論と実技を通して学ぶ ②作品作りのノウハウ、楽しさを知る。又、放送マスコミ業界で仕事をする上での心構え ③発想の転換・感性を磨く ④カメラの先生との連携で照明の重要性を学ぶ ⑤基本を繰り返し修練する	1通	136	4				○	○		○	○
11		○		音声実習	テレビ番組においての音声の收音方法について、基本的な機器操作や技術を修得させる。担当教員の経験から各種番組のノウハウを分かり易く説明し、全員が音声を担当しても困らない程度の技術と知識を持った人材を育てる。	1通	68	2				○	○		○	○
12		○		ノンリニア編集	パソコンの操作に慣れながら素材の取り込み・完パケ編集の基本操作を学ぶ。	1通	68	2				○	○		○	
13		○		ENGロケ取材基礎	ENGカメラの使用法を最低限マスターする。	1前	68	2				○	○		○	○
14		○		ENGロケ取材実習	ENGカメラの使用をマスターする。	1後	68	2				○	○		○	○
15		○		コンテンツ制作Ⅰ	画像処理ソフトの代表的な「Photoshop」・「Illustrator」・「AfterEffects」・「Premiere Pro」を用いて、写真の加工やイラスト作成、動画のエフェクト作成を行い、それぞれのソフトの特徴を理解し、基本操作を学ぶ。	1前	34	2				○	○		○	
16		○		コンテンツ制作Ⅱ	コンテンツ制作Ⅰで学んだことを生かし、「AfterEffects」と「Premiere Pro」を中心に、より実践的な加工や動画の作成を行う。動画完成までの手順や流れ、動画圧縮方法などを理解し作品を完成させる。	1後	34	2				○	○		○	
17		○		企画演出論	放送番組のスタッフとして、最低限知っておくべき映像演出の技法を学ぶ。演出技法の解説をした後にその技法が使われている映画の1シーンを見せて、現場ですぐに生かせる技術を判りやすく身に付けさせる。参考作品を見せて分析・解説して映像作品への理解を深める。	1前	68	4	○			○			○	
18		○		企画演出実習	テレビ番組、映画の制作で使われる企画書、脚本、構成案、スケジュール表などの作成、指導をする。	1通	68	2				○	○		○	
19		○		編集理論	映像編集に関する基礎知識を学び、編集の面白さと奥深さを理解して映像への興味を養う。	1後	34	2	○			○			○	
20			○	インターンシップ	企業等において、実際の現場を体験することを目的とした就業体験を行う。	1後	34	1				○		○		○
21		○		技術基礎	映像、音声、照明などの機器を操作する時に必要な電気の基礎的な知識を習得する。	1通	68	4	○			○			○	
22		○		放送技術概論	放送分野で必要な、さまざまな技術的知識を習得する。	1通	68	4	○			○			○	
60人		○		テレビ音声	テレビ音声の役割を理解させ他の部署との協調性を常に保つよう指導して1年間で音声の基礎と機器の操作方法を習得させる。	1通	68	4	○			○			○	○

24	○	スタジオ実習Ⅱ	スタジオでの番組制作について実践を通して学ぶ。様々なジャンルの番組を制作していく中で、番組制作のノウハウを学び、応用力を付ける。対談番組ではサイズやカットティングの基礎、バラエティーではアドリブ性やハプニングに対する対応、音楽番組では照明・音のチームワークやバランス・サイズ等の構図、料理番組では演出による被写体の見え方、等。	2通	136	4			○	○	○	○	○
25	○	デジタルエフェクト	アフターエフェクト（アプリケーション）を使って映像表現の幅を広げる。物づくりの基礎と心構えを学んでもらう。映像のデジタルでの扱いの基礎を学んでもらう。	2通	68	2			○	○			○
26	○	撮影技術実習	カメラや音声の技術知識だけでなく、撮影時に必要な美術の知識も習得する。	2通	136	4			○	○			○
27	○	アートクリエイティブ実習	カメラの技術知識だけでなく、撮影時に必要な美術や照明の知識も習得し、様々な技術分野を実践的に行う。	2通	68	2				○			○
28	○	番組制作論	番組制作に欠かせない製作過程についての知識や、撮影現場での制作進行などについて、様々な作品を参考にしながら学ぶ。	2通	68	4	○			○			○
29	○	ドラマ演出論	映像作品を制作する際に必要とされる、基本的な演出技法を習得する。	2通	68	4	○			○			○
30	○	ENG番組制作実習Ⅰ	主に取材用カメラを用いて、作品作りを目的とした撮影実習を行う。 また、前期では取材カメラの機械的な特性を活かした、技術的な撮影法を習得。また併せて照明の基本的視点や奥深さ、空間照明や間接照明の技法を学び、さらに色彩感覚などの知識を得る。	2前	68	2			○	○			○
31	○	ENG番組制作実習Ⅱ	ENGでの制作の総仕上げとして、これまで学んだ撮影及び照明の技法や知識を深めて、番組作りを企画の段階から行う。	2後	68	2			○	○			○
32	○	ノンリニアエディティングⅠ	編集ソフトの操作の修得、メディアからの素材の取り込み、完成した物のMA用の吐き出しなどフィニッシング設定や操作について学ぶ。	2前	68	2			○	○			○
33	○	ノンリニアエディティングⅡ	卒業制作などグループごとに撮影した素材を用いて編集をして完成させる。	2後	68	2			○	○			○
34	○	総合演習	テレビ番組、映画の制作で使われる脚本、コンテ、スケジュール表などの作成、指導をする。後半は卒業制作の脚本作りを指導する。	2前	102	6			○	○			○
35	○	卒業制作	番組制作の総仕上げ、技術レベルを上げると共に、台本作成から編集、作品完成までを学生主体で実践する。	2後	102	3			○	○			○
合計				35科目	2312単位時間(100単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修得単位数の合計が69単位以上であること。原則として、選択科目を除き、設定されている科目を全て受講しなければならない。また、必修科目は必ず単位を修得しなければならない科目となっている。 選択科目：必ずしも履修しなくてよい科目	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。